



ゆりかご 園だより

2025.11.1



後期がスタートして早くも1ヶ月が経とうとしています。今年は秋がほとんどないまま夏から秋への急激な季節変わりとなりましたが、11月29日に園庭で行った芋煮会は、子どもたちにとって短い秋を感じるよい機会になったのではないかと思います。後期も、父母の皆さんと一緒に子どもたちの成長を共に見守っていかれたらと思います。

あれから保育はどうなった？

先日、職員や保護者が購読している『ちいさいなかま（以下ちいなか）』の2013年11月号を開く機会がありました。ちいなかは毎年11月号が保育運動に焦点を当てた特集が組まれることになっているのですが、2013年といえば「子ども・子育て支援新制度」をめぐって全国の保護者と保育関係者たちがそれぞれの地域で熱く運動を展開していた時期です。いま改めて12年前の記事を読むと、これからやってくる新制度への不安で押しつぶされそうになっている声であふれていました。

あれから12年、新制度は予定どおり導入され、小規模事業所や企業主導型保育所が多数開設されました。施設形態は多様化しましたが、保護者は情報を集めてどの施設形態に我が子を入所させるのか判断しなければならなくなりました。コロナ禍を挟んで児童数は減少局面に移ってきたこともあり、国や自治体の政策において待機児童対策はあまり重要視されなくなってきたように思います。しかし隠れ待機児童は全国で8万人を超えているそうです。養成校においては入学者が減少の一途を辿り、入学しても保育施設への就職を望まない学生が増えているとの報告を目にすることが増えました。

ゆりかご保育園でも保育士の人数は決して充分であるとはいえません。保育士の人数を増やすには公定価格の引き上げ、保育士の処遇改善、配置基準の改善をセットで行い、その上でゆりかご保育園が大切にしている保育を対外的にアピールしていく必要があると考えます。国や自治体だけでなく保育園だけでなく両者が手を携えて初めて実現への兆しが見えてくるように感じます。

ぜひ、本年度も保育署名の活動に、ご協力をお願いします。

